

広報

やすらぎ

No.85 平成30年3月15日発行

冷たいけどあったかい

沢内中学校雪像づくり

久々に西和賀らしい大雪が続いた今冬。除雪の分もほとんどん積み重なり、ぶなの園周辺にはアルプス級の雪山が連なりました。2月9日、沢内中学校の1、2年生が来園、この雪山を活用して雪像作りのボランティアをしていただいています。西和賀の雪あかりの時期に合わせ、ぶなの園住民に楽しんでもらうために毎年実施されているものです。小雪が舞う寒空の下、生徒の皆さんは雪の冷たさも気にせず、時々笑い声を響かせながら制作してくれるので、窓の内側から見守る住民の方々も思わず笑顔に。そして出来上がった1年生の作品は、立体的に積み重ねた数えきれないほどの雪灯籠。2年生の作品は今年の干支にちなんだかわいらしい「いぬ」の顔。「ぶなの園の皆さん

に喜んでもらいたい」という温かい気持ちも伝わってきます。暗くなつてからロウソクに火を灯すと昼間とは違う美しさを楽しむことができ、施設の中からゆつくりと



かわいらしい作品が出来上がりました



完成後にみんなで記念撮影（左が1年生、右が2年生）



作業を見守る特養住民

眺めておりました。素敵なプレゼントをありがとうございました。

孫の成長を願いながら

デイサービスがたくりの園

桃の節句の季節ですが、辺り一面の雪、ゆき、ユキ。「今日も雪払い大変」が利用者の方々の毎日の話題になっています。春の陽ざしを心待ちにしながら『輪飾りお雛様』を制作。かまぼこ型の枠の中に内裏雛と吊るし飾りを納めた一体感のある雛飾りです。細かい作業も職員と分担しながら一緒に行ない、「めんこくなあれ」と孫やひ孫の健やかな成長を思い浮かべながら作りました。思いどおり“めんこく”出来上がった雛飾りは施設通路にきれいに飾られ、利用者や職員を癒してくれています。



「福は内!鬼は外!」

デイサービスがたくりの園

かたくりの園では、毎年恒例で節分の日にご利用者を代表して男女1名ずつに裃(かみしも)を着けていただき、豆まきをしています。利用者の皆さんの健康を祈願しながら行なう鬼払いです。今年も他の利用者が見守る中、勇ましい姿で勢いよく園内に沢山の豆をまいていただきました。その後は皆さんで福豆をいただきましたが、さすがに歳の数まで食べられた方はいなかったようです。何はともあれ、これでまた1年間健康で過ごせるはずであり、いろんな福がやってくることも期待しながら楽しんだ季節の行事でありました。



あま〜い香りが漂ってきます

「美味しくて楽しかった」「またやってほしい」などうれしい感想が寄せられています。こんなに喜んでいただけるなら、また企画するしかないでしょう」

2月14日はバレンタインデー。チョコレイトが主役のこの日に、ぶなの園では手作りケーキを思いっきり味わってもらいました。種類はショートケーキにバナナケーキ、チーズケーキ、もちろんチョコケーキも。さらにはプリン

やムース、芋ようかんまで。午後のおやつタイムに実施したのですが、住民の中にはケーキに標準を合わせ昼食を控えめにしたという方もいるほど。甘い香りに包まれた各テーブルでは住民同士や職員とのトークも盛り上がり、満足そうな表情を見ることができました。食後に記入してもらったアンケートには、「美味しくて楽しかった」「またやってほしい」などうれしい感想が寄せられています。こんなに喜んでいただけるなら、また企画するしかないでしょう」

甘党パンザイ企画!

ケーキを思いっきり楽しむ会



ケーキやお菓子がこんなに♪

デイサービス ぶなの園 運営推進会議開催

今年度2回目のデイサービスセンターぶなの園運営推進会議が、1月24日に開催されました。地域密着型サービスの透明性の確保、サービスの質の確保などを目的としているものです。利用者家族及び地域住民の代表、第三者委員、地域包括支援センター職員にご出席いただき、事業の活動報告や意見交換を実施。出席者の皆さんからは職員とは違った視点から様々な意見が出されました。積極的な情報発信と地



域住民への働きかけで開かれたサービスを提供していくことが大事であり、そのための大きなヒントを得ることもできました。自宅での生活に不安のある方やそのご家族の支えとなれるよう、今後も努力してまいります。

2月11日のしわが雪あかりには、ぶなの園とかたくりの園が参加。ぶなの園では職員有志が犬の肉球をイメージした雪あかりを制作しました。時間をかけた大作ではありませんが、それでもオレンジ色の温もりがゆらめくと、幻想的なこのイベントの一作品として美しく見えるものでした。

雪あかり in しわが 2018



施設長 平川 縫子

■納骨を終えると、母が居ないという現実と寂しさがいっしょに押し寄せてきた「子供や孫には「なにがあっても仕事は続ける」と口癖のように言っていたが、最期まで自宅で暮らしたいと思うのも母の本音であった。それを叶えるためには、介護保険サービスはもちろんな、隣り近所や親戚の人たちからの支援も必要だった。まさに深化した包括的ケアシステムそのものかと思うときもあった。■職場の理解は得られても、私自身が体力的・精神的にどこまで持つのか考える余裕もないまま始まった母の看取り介護だった。利用者の思いに沿った在宅での生活。そして介護離職ゼロをめざすと国は謳っているが、口で言うほど生易しいものではない。■4月からの介護保険法改正の内容に重点的に盛り込まれているが、絵に描いた餅にならぬように実現可能な施策、制度にしなければと切に思う。

あたたかい善意を頂戴し厚くお礼申しあげます

平成30年1月1日
～2月28日

【ご寄付】

- ・高橋廣成様
- ・東 英夫様

【ご寄贈】

- ・加藤靖様

【ボランティア等】

- ・沢内中学校の皆様
- ・佐々木エリ子様
- ・高橋セツ様



あしあと

【1月】

1日 おせち料理
4日 特養新年交賀会
10日 理事長年頭挨拶
13日 かつくりサロン事業
15日 かつくりみずき団子作り
16日 生活介護支援サポーター養成講習
22日 出張理容
24日 デイぶな小正月行事
25日 特養冬のお楽しみ会
30日 デイぶな運営推進会議
31日 広報やすらぎ発行
法人内部監査
かつくりサロン事業

法人の主な動き

【2月】

3日 恵方巻きメニュー
9日 節分豆まき
11日 沢内中雪像作りボランティア
13日 にしわが雪あかり
14日 特養第三者評価委員会
19日 かつくりサロン事業
27日 ケーキを楽しむ会
在宅家族会三役会議
在宅第三者評価委員会
在宅家族懇談会
かつくりサロン事業

やすらぎ会ホームページ
最新情報更新中!!

右のQRコードを読み取れば、スマートフォンでも簡単に閲覧できます。ぜひのぞいてみてくださいね♪



<http://yasuragikai.com/>

編集後記

人手不足の問題が福祉業界だけでなく業種を問わず深刻化しています。働く世代の絶対数減少に加え、職業選択の決め手に「ゆとり」を重視する傾向が強いことも一因かもしれません。「働き方改革」が功を奏してくればよいのですが…。

やすらぎ会広報委員会

為田眞太郎 佐々木
佐々木愛子 高橋 篤
涉

- 特別養護老人ホーム ぶなの園
- デイサービスセンター ぶなの園
- ホームヘルプステーション ぶなの園
- 西和賀介護相談室
西和賀町沢内字太田2地割135番地
電話0197-85-2322 FAX0197-85-2317
E-mail bunanosono@swc-yasuragikai.or.jp
- 高齢者生活福祉センターかつくりの園
西和賀町沢内字大野17地割140番地1
電話0197-85-3388 FAX0197-85-3389